

B11b 光赤外線大学間連携観測の円滑な遂行に向けた環境整備

秋田谷洋 (広島大), 渡辺誠 (北海道大), 大朝由美子 (埼玉大), 諸隈智貴 (東京大), 斉藤嘉彦 (東京工業大), 村田勝寛 (名古屋大), 野上大作 (京都大), 高橋隼 (兵庫県立大), 永山貴宏 (鹿児島大), 黒田大介, 関口和寛 (国立天文台), 光・赤外線天文学大学間連携観測チーム

光・赤外線天文学大学間連携事業では、国内外の可視・赤外線望遠鏡を連携して用いた観測研究を遂行している。観測対象には突発天体や時間変動天体の追跡が多く、即応的な観測開始や連続的なデータ取得が求められる。そのためには、各地に散らばる観測地点それぞれの機器状態や天候の状況を把握し、適切な観測指示を送ることが必要となる。そこで我々は、連携観測を円滑に遂行することを目指した環境整備を進めている。

全観測地の最新状況の情報を共有するため、CGIベースの情報一覧WWWページを立ち上げた。このページでは、各観測地の装置・望遠鏡の最新状況と今後の予定をwebブラウザ上で書き込み、かつ、閲覧できるようにしている。観測指示者はこのページを見ることにより、観測遂行に適切な望遠鏡・装置の組み合わせを瞬時に知り、指示に活かすことができる。また、各地の全天スカイモニターへのURLリンクも付記されており、天候状況の把握も容易である。

また、各観測地の天候状況を把握するためには、気象情報をリアルタイムに取得する機器を各地に配置することが欠かせない。我々は、全天スカイモニターシステムの整備が十分ではなかった北海道大学附属天文台と東京工業大学明野観測所に対して、すでに同様の機器の開発・運用に成功している国立天文台岡山天体物理観測所および広島大学東広島天文台の経験を提供し、新たにスカイモニターシステムを製作して設置し、運用を開始した。スカイモニター製作のノウハウは確立したため、今後の量産、他地点へのさらなる増設も容易となった。